

# 日本語教育の実践におけるナラとナラバの扱い

## —文体差教育の一例として—

奈良 夕里枝

### 1. はじめに

日本語教育において、文体差や場面によるスピーチシフト等の指導に関する研究はすでに盛んにおこなわれている。特に初級段階では丁寧体（ですます体）と普通体（親密体）は学習の必須項目となっている。一方、現代日本語において、条件接続辞のナラとナラバは、後述するように、微妙な、文体・用法・表現論的な差異を呈している。本稿は、そのような差異を日本語教育に持ち込む場合、どのようなことに留意すべきかを明らかにすることを目的とする。

まず、日本語教育におけるナラとナラバの取り扱いについて、現状を確認しておく。代表的なテキストをいくつか見てみると、『みんなの日本語初級Ⅰ』『みんなの日本語初級Ⅱ』『J.BRIDGE FOR BEGINNERS Vol. 1』『J. BRIDGE FOR BEGINNERS Vol. 2』『みんなの日本語中級Ⅰ』『できる日本語初級』、『できる日本語初中級』ではナラのみが扱われている。また、学習者向けの条件表現の学習書で最も詳しいものは日本語文法セルフマスターシリーズの『条件表現』であるが、この学習書ですらナラのみが扱われ、ナラバについては触れられていない。『みんなの日本語中級Ⅱ』の第22課の「読もう」には、『文藝春秋』の記事が引用され、説明のないままナラバが現れている。

- (1) 死を考えることは生を考えることです。人の業績や人生上のエピソードは、つねに同時代の周りからの評価にさらされ、それを集約したかたちで、死亡記事や人名事典の記述がなされます。それをもって「客観的評価」とされ、私たちはあまり疑問を抱きません。しかし本人がどう思っているかは別問題です。また人物やその作品、業績の評価は、時代と共に変化することはご承知のとおりです。それならば、いっそこ本人にその作品や人生について書いていただければ、時代を隔てて

も価値をもつ貴重な資料になりうるのではないかと考えたわけです。

（ふりがな原文ママ、下線筆者）

このように日本語教育ではナラだけを取り上げる、もしくはナラバが現れても説明のないままである。しかし、ナラとナラバが同じであるということが明記されているわけでもない。現代日本語においてナラとナラバの双方が使用され続けているという現状から、ナラとナラバを考察し、日本語教育現場での実践に備えるための分析を行っておくことが必要であると考ええる。

## 2. 先行研究

文体と日本語教育については、多くの先行研究がある。たとえば、三牧（2007）は、日本在住の日本語学習者と日本語母語話者を対象に対話の中でのスピーチレベルシフトを調査し、丁寧体と普通体のスピーチレベルシフトについて、初級・中級・上級での問題点を指摘し、全レベルについてスピーチシフトを指導するよう会話教育への意見を述べた。具体的には、初級では丁寧体と普通体を、上級ではOPIに基づき、会話の中でスピーチレベルシフトを円滑なコミュニケーションのために活用することを意識させる指導をすることを提言した。

また、井上（2009）は、現代語書き言葉均衡コーパスの中から白書、国会議事録、書籍、Yahoo!知恵袋を調査対象とし、語の文体と位相について以下のよう位置付けている。

### (2) コーパスと語の文体・位相

コーパス	数	語の文体	位相
白書	500万語	文章語	書きことば
国会議事録	500万語	あらたまった日常語	話しことば
書籍	700万語	無色透明な日常語	書きことば
Yahoo!知恵袋	500万語	日常語	話しことば

そして、論説文では文章語が適しており、日常語を使う際には注意が必要であることを指摘している。

以上のような、日本語教育に関連した文体教育に対する提言が見られる。

次にナラとナラバについて見ていきたい。ナラを日本語の教科書で取り上げる際に、ナラバにまで言及しない根拠はその形式の成立が関与していると思われる。小林（1996）においては、ナラとタラの単独形式の成立過程について以下のように述べている。

- (3) 「ナラ」「タラ」という形式が成立した理由、すなわち、「未然形+バ」という表現形式をとりながら、本来必須の要素であるはずの助詞「バ」を脱落させることが可能であった理由は、「ナラバ」「タラバ」の発達に伴い、この表現形式全体が接続助詞的なものとして意識されだし、特に「バ」を必要としなくなったのだと考えられる。おそらく「ナラー」「タラー」という長音化した段階を経て、その短縮形として成立したのが「ナラ」「タラ」なのであろう。

このような成立過程のためか、現代語の文法研究においても、ナラとナラバには意味差がないとして扱われることが多いが<sup>1</sup>、違いを指摘した研究もある。

国立国語研究所（1964）の『現代雑誌九十種の用語用字』では調査対象である90種の雑誌を五層に分け、その雑誌のジャンルにより（4）のように分類している。

- (4) 一 評論・文芸、二 庶民、三 実用・通俗科学、四 生活・婦人、  
五 趣味・娯楽

その上で、ナラとナラバについては（5）のような指摘がされている。

(5) [16.1]				[16.2]			
層	なら	ならば	計		なら	ならば	計
一	13	8	21	硬	28	17	45
二	24	4	28	軟	82	12	94
三	15	9	24	計	110	29	139
四	13	3	16				
五	45	5	50				
全	110	29	139				

1 仁田（2009）の例文にはナラとナラバが混在するが、特にその点に関して触れられていない。また、前田（2009）p 50（108）の表には「なら（ならば）」とあるが、これに関する説明はされていない。

層別にみると〔16.1〕のとおりで、二層、四層、五層および全体について、「なら」は「ならば」より多いといえる。また、比較的〈かたい〉一・三層と、〈やわらかい〉二・四・五層とにわけると、〔16.2〕のようになり、「ならば」はかたい層に出やすい。 $\chi^2=11.531^{***}$ 、 $\nu=1$ 。

〔16.3〕	なら	ならば	計
地の文	68	22	90
会話文	42	7	49
計	110	29	139

〔16.3〕のように、地の文と会話文とにわけると、「ならば」は地の文に多いようであるが、統計的に有意差はない。 $\chi^2=1.983$ 、 $\nu=1$ 。

〔16.4〕	なら	ならば	計
名詞	48	10	58
形容動詞語幹	6	—	6
代名詞	11	—	12
副詞	10	3	13
活用語+の	5	—	5
名詞+格助詞	6	1	7
動詞連体形	19	9	25
である	1	—	1
活用語+た	3	7	10
活用語+ない	1	—	1
動詞+う	—	1	1
計	110	29	139

接続から分類すると〔16.4〕のようになり、助動詞「た」に続くばあいは他のばあいにくらべて「ならば」の出る率がたかい。これは「なら」が提題的であるのに対して、「ならば」の方がより仮定的であることを示すものと思われる。（太字原文ママ）

すなわち、ナラとナラバの使い分けの要因には、文章や文体のかたさ、地の文か会話文か、提題的か仮定的かといったものがあることが指摘されているのである。

また、ナラとナラバについて、中島（2007）は「あらたまり度」の観点から

自然談話資料『職場における女性の話し言葉』を調査し、ナラバ2例、ナラ12例を収集し、ナラバは2例ともフォーマルな会議の場面であったのに対し、ナラはフォーマル6例、インフォーマル6例であったことを報告している。

さらに、小野（2019）にはスピーチレベルシフトと、音便化した異形態が異なる意味を持つとの指摘がある。小野（2019）では夏目漱石『心』の「上」における発話を分析し、物語が進むと先生と奥さん夫妻と私との会話が「〈敬語あり〉から〈敬語なし〉へと」変化していることを指摘し、「夫妻と私の親密度が高くなって」いるスピーチシフトの変化がみられることを明らかにした。また、「んです」と「のです」が混在することを指摘し、「のです」は冷静さを失わず、論争するような口調であり、「んです」は感情的にのめり込んだような口調であることを指摘している。つまり、「んです」と「のです」は単に普通体と丁寧体、話し言葉と書き言葉といった区別のみならず、表現論的意味が異なることを示している。

しかし、以上のような指摘はあるものの、そのような差異に基づいて日本語教育でナラとナラバをどのように扱うべきかについては考えてこられなかった。そこで、本稿では以上のような現状を包括的に扱えるようなアプローチの仕方としてナラとナラバの差異を文体、用法、表現論的側面から把握し、日本語教育現場での扱いについての提案をしていきたい。

### 3. 分析

分析の対象としては、学習者が触れることの多いと考えられる自然談話と、書き言葉の中から書籍及び新聞を用いた。自然談話の例文の収集は平成13年～15年に作成された名大会話コーパスを使用した。書籍および新聞はBCCWJの書籍コア（2000～2008年）、新聞コア（2000～2008年）を用いた<sup>2</sup>。BCCWJは

---

2 (i) のように後件（主節）が省略されたり、文がねじれたりしていて明確でないものは分析の対象とはしない。

(i) M032：えー、一番よかったところは、強いて挙げるならば。EOS M032：（うん。EOS M032：何？）えー、これがまた困るわけで。EOS F135：なんで困んのさ。

書き言葉の均衡コーパスであり、「書籍」カテゴリーの中にも多様なジャンルが混在している。小説の他にも、エッセイ、科学、教育、社会、人文、哲学など様々である。小説やインタビューを文字化した文章には、地の文と会話文が混在し、ハウツー本や自己啓発本には、文字資料ではあっても丁寧体（です・ます体）で書かれて、読者に話しかけるような書きぶりで話し言葉の特徴を持つものも数多くある。このような書籍内のジャンルによっても条件接続辞ナラの用法の出現頻度は異なると予測されるが、本稿では日本語学習者が「書籍」ととらえて触れている書き言葉である点を考え、書籍全般について下位分類をせずに分析をするものとした。以下、例文中の下線は引用者によるものである。

上述の資料（以下、「話し言葉」「書き言葉 書籍／新聞」と略記）におけるナラとナラバの現れ方を、用法別に分類したものが、次の表1である。この表は、まず、ナラとナラバの用法を、条件的用法と非条件的用法とに大別し、各用法をさらに下位区分したものである。条件的用法の仮定的用法は下位分類が可能であるが、諸説があり、ここでは未実現である事態、または話し手が真偽を知らない事態を仮定するものは仮定的条件と大きく分類しておく。反事実的用法は真偽が決定している事態に対し、偽を仮定する条件文である。

非条件的用法の分類は基本的に前田（2009）に従うものとする。

#### (6) 前田（2009）による非条件的用法の分類

非 条 件 的	並列・列挙
	評価的用法
	終助詞的用法
	後置詞的用法
	接続詞的用法

このうち評価的用法については、ナラには認められないとの指摘がある<sup>3</sup>。筆者はナラの評価的用法について議論の余地があると考えているが、本稿ではナラに評価的な語がついたものはナライイ類として分類しておく<sup>4</sup>。また、本

3 「評価的用法」に関して前田（2009）で、ナラの特異な点として、「単に仮定的な事態を取り上げると言う機能だけを果たすのではない」こと、ならびに「他の接続辞とは異なり、評価的用法をもたない（\*ならいい）」ことを挙げている。

稿では後件（主節）が明らかであるものを分析の対象とするため、終助詞的用法は除く。接続詞的用法は方言話者に多く現れ、検討の余地があるが、本発表ではソレナラ、ホンナラの形を取るものはここに含めた<sup>5</sup>。また、ナラの特徴的な用法である提題的用法と、「行くなら行くで」のようにまとまって使われる慣用的用法を加える。

表1 条件接続辞ナラとナラバの用法別の用例数

		話し言葉 自然談話 ナラ	話し言葉 自然談話 ナラバ	書き言葉 書籍 ナラ	書き言葉 書籍 ナラバ	書き言葉 新聞 ナラ	書き言葉 新聞 ナラバ
条件	仮定	116   36.8%	1   0.3%	56   47.5%	6   5.1%	16   23.9%	6   9.0%
	反事実	4   1.3%	0   0.0%	3   2.5%	7   5.9%	0   0.0%	0   0.0%
非条件	並列・列挙	0   0.0%	0   0.0%	1   0.8%	1   0.8%	5   7.5%	0   0.0%
	ナライイ類	46   14.6%	0   0.0%	0   0.0%	0   0.0%	0   0.0%	0   0.0%
	提題的	73   23.3%	0   0.0%	10   8.5%	0   0.0%	24   35.8%	0   0.0%
	後置詞的	8   2.5%	2   0.6%	10   8.5%	1   0.8%	8   11.9%	4   0.6%
	接続詞的	43   1.7%	0   0.0%	9   7.6%	6   5.1%	2   3.0%	1   1.5%
	慣用的	22   7.0%	0   0.0%	8   6.8%	0   0.0%	0   0.0%	0   0.0%
計		312   99.0%	3   1.0%	97   82.2%	21   17.6%	56   83.6%	11   16.4%

話し言葉では、ナラバの出現は極めて低く、1.0%、3例を数えるのみである。そのうち2例は後置詞的用法（前置き）である。

(7) F098：うーん、あれもやっぱり（いや）違いますよね。EOS F098：地形からして違いますもんね。EOS M029：地形違いますね。EOS M017：い

4 ナライイ類49例中、ナライイは45例、ナラダイジョウブ3例、ナライヤ1例であった。  
5 方言話者に多く現れ、検討の余地があるが、本発表ではソレナラ、ホンナラの形を取るものはここに含めた。

F081：ほんで、それで、もしやろうとやらまいと、もし失敗しても、彼はそういう考えを伝えたと思うやろうから、もうそれはそれで友達なんで。EOS F081：で、そう言われてみたら、私はそんなこと言わんでもええやんとか言いながら、実際はやめた方がいいやろとか思ってるわけやんか。EOS F081：（ ）ほんなら、それ、で、ママは日本的やって言うねんな。EOS F081：それを、やめた方がいいやろって思ってた、でも、今そこで傷つけんのは悪いと思って、そうやなー、頑張ってるかもなーとかって、（うーん）言葉濁したようなことを言うっていうのは、なんの意味もない。

やいや、もっと言うならば、（ええ）バリー・システムが違う。EOS M029：うまいこと言うな。EOS M029：こりゃすごい。EOS M029：すごいじゃれた。

- (8) F032：（うん）それから、何て言うのかしら、上と下でしょう。EOS F032：（ああ）EOS F068：難しいのね、敬語って。EOS F070：それで本来ならば、そんな敬語を使わない自分の娘を、（使っちゃいけないのよね）使っちゃいけない、自分の娘のことを敬語を使って言わなくちゃならないから、（うんうん）そこのとこの切り替えとか、がね。EOS F070：やっぱりああいう公のときはやっぱりあれなんでしょうね。EOS F032：そうでしょうね。EOS F032：（うん）うん。

前置き表現を使うのは論理立てて、権威を持って物事を説明しようとするためである。そのため、さらにフォーマルな硬い表現であるナラバが使われているのだろう。

(9) は条件的用法の仮定的用法の例である。

- (9) F032：そしたら同じ名前の人はいたの。EOS F032：（ええ、ふーん）それで、たぶんその人じゃないかっていうだけど。EOS F032：で、どうしようかっていうのを今、え、ん、あの一、ほかの人ともね（うん）相談してんだけども。EOS F032：まあ、すごくたくさんね、（うん）方々に手紙を出したんならば、（うん）その人にだれか言うかもしれないから、もうちょっと様子見てね。EOS F032：（うん）うん。EOS F032：（ふーん）まあ、いろんな人いるわよね。EOS F070：いくつぐらいなの。

話している相手が手紙を出したと聞き、それを受けて真と仮定した発話である。仮定であることを確認するためにナラバが使用されている。

次に、書籍の中で最も多かった仮定的用法におけるナラとナラバの例を見る。

- (10) むしろ、一括契約により割引などのメリット、一括支払による効率化は大きいものです。それは、本部で扱うことによって、さらに仕訳の自動作成や自動取込などにつながっていきます。こうした流れに逆行し、わざわざ請求データなど原始証憑を事業所まで落として、そこでの起票からやり直すことはないでしょう。また会計システム



の改善・進歩によって、自動仕訳によりミスもなく迅速に「事業所・部門に費用を計上」することができるなら、事業所が損益計算書や貸借対照表よりに責任を果たしていける、という性格の問題だと考えています。(医療)

- (11) もし諸君が、互いに個人としての交際において、まったく相容れることのできない人々であるならば、その間に僕があるからといって、何でも強いて友人づきあいをするにも及ばない。(プロ)

ナラを使用した(10)は、ですます体であり、内容は複雑であるものの、平易な語で説明をしている。それに対し、ナラバが見られる(11)では「諸君」「相容れる」「及ばない」といった語が使用されており、権威を見せようとするフォーマルな表現を試みていることがわかる。

次に、全体の中で唯一ナラよりもナラバが多く使用された条件的用法における反事実的用法について見ていく。

- (12) 一人は棺桶の蓋を閉じてはじめて値打ちがわかるというけれど、冗談じゃない。値段をつけるなら、生きているうちにして欲しかった。(女神)

- (13) おもえばフランツ・ヨーゼフ・ヘーエで陽子に出会ったときから、因縁の糸に絡まれていたのかもしれない。香保を偲んで、香保と約束したグロスグロックナーを見に行かなかったならば、陽子に会うこともなかった。陽子もまた、亡き矢野の面影を追って、あのとき同地を訪れなかったならば、高木に出会うこともなかった。あのとき二人が邂逅しなかったならば、冬本路夫の作品に特別な関心を払わなかったであろう。(雪煙)

反事実的用法は現実で真偽がはっきりしている事態に反する事態を述べるため、最も仮定性が強い用法である。そのため、バを伴っていることで仮定性が明確に示されると考えられる。

非条件的用法の後置詞的用法もナラが9例であるのに対し、ナラバが6例と多く見られた。

- (14) 交通事故にあつて運び込まれてきたネコがいました。片方の目が飛び出していました。普通なら、眼球の摘出が行われます。選択の余

地などない状態でした。（犬と）

- (15) 竹原さんの場合を例にとると、組織なし、資金なし、知名度なしで、普通ならば取材先からうさんくさいと思われても仕方がないのだが、逆にマイナス面をさらけ出すことでクライアントに親密感を与え、受け入れられている。（関西）

ナラを使用した（14）は、ですます体であり、一文一文が短く平易である。それに対し、ナラバが見られる（15）では一文が長く、フォーマルな文体で書かれており、権威を持たせようとする表現となっている。

次に非条件的用法の接続詞的用法を見てみよう。

- (16) 確かに自分で「お宅の問題はこれですよ。私が分析した結果、解決方法はこれだと思います」と言うほうが、お客様自身に解決策を探していただくよりおそらく容易だと思う。なぜなら、どの企業にも変わりたくないお家事情や組織のクセがあり、よほど規模の小さなオーナー企業でない限り、全社が一丸となって活動に取り組み、成果をあげるようになるには、時間も根気も相当必要だからである。（これ）
- (17) 加えていまの時代、瞬時に売ってしまう、スピーディさを研磨していくことが不可欠だ。須田も、「中古・再生住宅の販売は、なにより鮮度ですよ。鮮魚店と同じ」と語っている。それならば、千差万別、売り方のストックは、たくさんあったほうがいい。販売力のある鮮魚店は、どんな売り方をするか考えてみればわかる。（田舎）

接続詞は論理的にフォーマルに展開する際に用いられるため、ナラ、ナラバ共に権威のある表現となっている。

最後に新聞におけるナラとナラバの例を見ていく。新聞は客観的な事実を伝えることが多いため、条件的用法の仮定的用法より非条件的用法の提題的用法が多い。また、特に仮定性の高い条件的用法の反事実的用法は0例であった。まず、ナラバが最も多くあらわれた仮定的用法を見ていく。

- (18) いくつか提案をしたい。まず、長時間労働を少しずつでも減らしていくことだ。そして残業手当の請求を遠慮するような労使関係には、そろそろピリオドを打つべきだ。残業代が出せないなら、経営者は残業をなくすよう指導すべきだ。その結果、賃金制度の見

直しが必要なら労使できちんと協議すべきだ。社会経済生産性本部は「不払い残業を解消すると九十万人の新規雇用が生まれる」と試算している。不払い残業の解消は雇用・失業対策にもつながる。(全国紙／毎日新聞朝刊2003/6/12)

- (19) 小泉純一郎首相と自民党は総選挙(9日)を前に、政治的影響力を持つ農業団体の反発を避けたいと考えている。日本がこれまで自由貿易協定に署名したのは、農産物輸入にほとんど影響がないシンガポールだけだ。総選挙後も、日本がメキシコとの結論を速やかに出せないならば、日本市場への参入を望む農業国との自由貿易協定は深刻な打撃を受けるだろう。韓国やチリ、タイ、フィリピン、マレーシア、さらに米国、豪州、カナダ、中国などが含まれる。例えば、コメの主要輸出国であるタイが、日本のコメ市場参入のよりよい機会が与えられないならば、日本との自由貿易協定に署名する必要があるのだろうか。(全国紙／毎日新聞朝刊2003/11/8)

(18) では、後件(主節)にベキダがあり、筆者の意見を強く述べていることがわかる。この主観性からナラを選択しているのだろう。それに対し、(19) では後件(主節)にダロウを取っており、予測を述べている。場面の仮定性を強調するためにナラバが選ばれていると考えられる。

次に多くナラバが見られたのは後置詞的用法である。

- (20) 高橋誠一・東北福祉大教授(老人福祉)は「介護者が共感することで痴呆の症状が悪化しないことは、介護現場では知られている。しかし、『共感』はそう簡単なことではない。そのためのテクニックや考え方を体系付けた点でバリデーションは画期的だと思う」と評価する。「受け入れる」姿勢は徹底している。同施設内の鉢入れから土を食べてしまう男性がいた。通常なら「異食」ととらえ、部屋に閉じ込めてしまうこともある行為。しかし、バリデーションでは、「意味がある」と考える。家族に聞いて調べたところ、男性は元農家で、現役時代、土の酸性の度合いを調べるため、よく土をなめていたという。スタッフは、問題行動をとがめるのをやめ、土のうえに食べても害のないコーヒーの出し殻をまくようにした。(全国紙／読売新

聞朝刊2002/6/19)

- (21) よしんば、それが前藩主の失政による場合であっても、藩主の地位を継承した以上は、その責任をも継承せざるを得ないのである。しかる後、家臣団に同意を求め、そして借知の措置に踏み切る、という筋合いであった。これを今日の状況と引き比べるならば、その相違は明白ではないか。「企業経営が行き詰まった」「資金的余裕がない」「高齢者社員はコスト・パフォーマンスが悪い」等々の理由によって、リストラという名の解雇が横行している。しかし、「経営が行き詰まった」と言うのであれば、経営の衝に当たるトップの人間の責任から問われなければならないはずであろう。（全国紙／産経新聞朝刊2002/1/22）

新聞はプロの記者が情報を伝えるために書いている。しかし、その中でもナラとナラバが混在しており、仮定性や権威の表現のレベルをコントロールしていることがわかる。

#### 4. 結論

以上、ナラとナラバのコーパスにおける使用状況を見てきた。ナラが全ての用法で使用することができ、特に話し言葉ではナラバの使用は1.0%とかなり低かった。しかし、話し言葉でも仮定的であることを強調したり、権威を強く見せようとしたりするにはナラバを使うことがわかった。また、書き言葉では書籍で17.6%、新聞で16.4%ナラバを使用しており、このことから日本語教育でもナラバを全く扱わないことは問題があると考えられる。初級の教科書でナラのみが扱われていることから、ナラバは上級・超級で扱うのがいいだろう。書き言葉で特に使用され、フォーマルな文体で使用され、権威の表現や仮定的であることを示すために使用されることを提示し、提題的用法では使われないという特徴についても学習者に指導するのが望ましいと考える。以上を表にまとめると、以下ようになる。

表2 条件接続辞ナラとナラバの日本語教育の実践に対する提案

初級	ナラのみを教える。
中級	理解語としてナラバに触れる。
上級	算出レベルを見据えて、ナラバではフォーマルな文体で仮定性をより強く表し、権威の表現として使用できることを指導する。

## 参考文献

- 井上次夫 (2009) 「論説文における語の文体の適切性について」、『日本語教育』141号、日本語教育学会
- 小野正弘 (2019) 「夏目漱石『心』の発話における文末構造—物語の展開ならびに内容との関わり—」、『表現研究』第110号、表現学会
- 国立国語研究所 (1964) 『現代雑誌九十種の用語用字』第三分冊—分析一、秀英出版
- 小林賢次 (1996) 『日本語条件表現史の研究』、ひつじ書房
- 鄭相哲 (2004) 『日本語認識モダリティの機能的研究—ダロウを中心に—』、J&C
- 中島悦子 (2007) 『条件表現の研究』、おうふう
- 奈良夕里枝 (2012) 「日本語条件表現における後件のモダリティー制約」、『フェリス女学院大学文学部紀要』第47号、フェリス女学院大学
- 奈良夕里枝 (2013) 『日本語条件表現とモダリティに関する研究』、博士学位請求論文、韓国外語大学
- 奈良夕里枝 (2014) 「文のタイプによる非条件的な用法のバの出現様相について」、『日本語文学』第63輯、日本語文学会
- 仁田義雄 (2009) 『日本語のモダリティとその周辺』、ひつじ書房
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』、くろしお出版
- 益岡隆志 (1993) 「日本語の条件表現について」『日本語の条件表現』、くろしお出版
- 三牧陽子 (2007) 「文体差と日本語教育」、『日本語教育』134号、日本語教育学会

## 教科書

- 『みんなの日本語Ⅰ』第2版本冊、スリーエーネットワーク、スリーエーネットワーク、1998
- 『みんなの日本語Ⅱ』第2版本冊、スリーエーネットワーク、スリーエーネットワーク、1998
- 『みんなの日本語中級Ⅰ』第2版本冊、スリーエーネットワーク、スリーエーネットワーク、2008
- 『みんなの日本語中級Ⅱ』第2版本冊、スリーエーネットワーク、スリーエーネットワーク、2012
- 日本語文法セルフマスターシリーズ7『条件表現』、2001、蓮沼昭子/有田節子/前田直子、くろしお出版
- 『J. BRIDGE FOR BEGINNERS Vol. 1』、小山悟、凡人社、2007
- 『J. BRIDGE FOR BEGINNERS Vol. 2』、小山悟、凡人社、2008

『できる日本語初級』本冊、嶋田和子（監修）、アルク、2011  
『できる日本語初中級』本冊、嶋田和子（監修）、アルク、2012

## 例文引用

田舎：『“田舎”社長の成功経営術』、鶴蒔靖夫、IN通信社、2003  
犬と：『犬と話ができる！』、小原田泰久、廣済堂出版、2002  
医療：『医療法人・医療生協の会計改革』、森川和行、同時代社、2004  
関西：『関西商魂』、中森勇人、ソフトバンクパブリッシング、2005  
これ：『これまでのシックスシグマは忘れなさい』、眞木和俊、ダイヤモンド社、2004  
プロ：『プロメテウス』、杉山秀子、新樹社、2003  
女神：『女神』、久世光彦、新潮社、2003  
雪煙：『雪煙』、森村誠一、光文社、2001